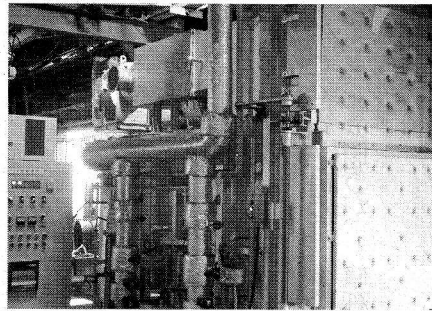


熱処理炉を2基増設

三芳合金、生産能力3割増

銅合金開発・製造を手掛ける三芳合金工業(本社〓埼玉県三芳町、萩野源次郎社長)は6月から新たな熱処理炉の稼働を始めた。導入した炉は2基で、それぞれカーボンオフセットの一環である省エネ化と航空機向け材料の製品特性の向上が目的。生産能力は従来の2基から4基体制になったことで、3割以上高まる見込みだ。



熱交換器を備えた省エネ型熱処理炉

以上。熱交換器によって排熱を回収・再利用するシステムで、余熱により約200度に熱した空気で炉内を温めることでガスの消費量を抑えられる。

従来の設備と比べて約2割の省エネ効果が見込まれ、エネルギー高騰への対策にもつながる。現在は削減効果を測っており、今後、効果があれば他の炉への導入も検討する(萩野社長)方針だ。製品の性能向上に向

けて増設した炉はテーエヌケー社(本社〓新潟市北区、高橋清志社長)製で、月1000t以上の処理が可能。備え付けのエレベーターで炉から冷却水槽への搬送が自動化。急冷までの時間を短縮し強度などを引き上げられる。

排熱利用で省エネ化

省エネ向けに導入した熱処理炉はナリタテ

クノ社(本社〓愛知県瀬戸市、成田春樹社長)の設計によるもので、処理能力は月1000t